

ネイティブ・シュードモナス属クレアチニンアミドヒドロラーゼ

Cat. No. DIA-130

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 クレアチニンアミドヒドロラーゼは、クレアチンをクレアチンに \rightleftharpoons 換する加水分解反 \rightleftharpoons を触媒します。この酵素は微生物から精製されます。酵素の分子サイズは約175,000です。この酵素は、他の関連酵素と組み合わせることでクレアチニンの酵素的アッセイに役立ちます。クレアチニン + H₂O → クレアチン。

用途 この酵素は、臨床分析においてクレアチンアミノヒドロラーゼ、サルコシン脱水素酵素またはサルコシン酸化酵素およびホルムアルデヒド脱水素酵素と結合することで、クレアチニンの酵素的測定に有用です。

別名 クレアチナーゼ; クレアチニンヒドロラーゼ; クレアチニンアミドヒドロラーゼ; EC 3.5.2.10; 9025-13-2

製品情報

由来	シュードモナス属
形態	スクロースとBSAを安定剤として含む凍結乾燥粉末
EC番号	EC 3.5.2.10
CAS登録番号	9025-13-2
分子量	175 kDa
活性	> 250U/mg タンパク質
等電点	4.7
pH安定性	pH 7.5-9.0 (5°C, 16時間)
最適pH	6.5-7.5
熱安定性	70°C未 \rightleftharpoons (pH 7.5、30分)
最適温度	70°C
ミカエリス定数	3.2 x 10 ⁻² M (クレアチニン)、5.7 x 10 ⁻² M (クレアチン)
構造	酵素1モルあたり6サブユニット (各サブユニットに1モルの亜鉛が結合しています)
阻害剤	Ag ⁺ , Hg ⁺⁺ , N-ブロモスシニミド, EDTA
機能	環状アミドにおける炭素-窒素 (ペプチド結合ではない) 結合に作用する加水分解酵素活性。
単位定義	1ユニットは、pH 8.0および25 °Cで、1.0 mmoleのクレアチニンをクレアチンに加水分解します。

保管・発送情報

保存方法 2-8°C